さっぽろ第２支部 支部だより**第 27 号**
発行／公益社団法人北海道看護協会　札幌第２支部
2022 年３月

あじさい

支部長あいさつ

浪岡まさみ 支部長

会員の皆様方におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。まずは、2 月 19 日に支部大会が滞りなく行われましたことをここにご報告いたします。この支部大会では、議決権行使書や郵送による投票等、多くのご協力をいただき厚く御礼申し上げます。また、この1年無事に事業を進めてこられましたのは、ひとえに会員の皆様のご協力によるものと、重ねて感謝申し上げる次第です。

さて、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会や講演会等の開催に影響が及びました。2021 年度も残念ながら、「看護の日」の健康相談や会員同士の交流会は中止を余儀なくされました。しかしオンラインシステムの活用により、研修会をはじめとする多くの事業を執り行うことができ、講義の配信はもちろん、グループワークなど今後の研修会や講演会のあり方について視野を広げることができた１年でした。

今年度の支部活動は、広報出版委員会による「看護の日」健康活動から始まる予定です。この活動は、地域の方々との交流の機会となる貴重な活動です。しかし未だコロナ禍にあっては、人が集まらない形式で「看護の日」を広く地域住民にアピールできたらと考えています。また、7月には看護師職能委員会の企画による、「地域における看看連携の実際」をテーマに研修会が企画されています。地域完結型医療の推進により、看護職の連携は一層重要になってきています。患者の視点に立った看看連携について考える機会になればと思います。働き続けられる職場づくり推進委員会では、施設間交流研修を企画しています。勤務先以外の施設での研修は、多くの学びが得られる機会となります。ぜひ多くの施設からご協力いただければと思います。9 月には支部担当研修の「看護管理者養成研修」が予定されています。この研修は毎年北海道各地より参加者があり、看護管理者としての成長を支える研修として継続されています。

前述しましたように 2021 年度は交流会がすべて中止となりました。リモート研修は新たな研修会の形として、多くのメリットがありますが、実際に顔を合わせて交流する場は「顔の見える関係づくり」をするうえでは欠かせない機会と思います。今年度は工夫をしながら交流する場をつくっていきたいと思います。

最後になりますが、近年は新型コロナウイルス感染症のみならず、多くの災害を目にすることが多くなってきました。札幌第 2 支部では不測の事態が起こった時こそお互いに連携し、看護の力で患者や地域の方々の助けになることができるよう努めていきたいと考えています。皆様のご健勝をお祈りするとともに、今後も支部運営にご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

副支部長あいさつ

高橋利江副支部長

副支部長として、2 期 3 年目を迎えることとなりました。

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株が広がり、感染者数が拡大するなど予断を許さない状況にあります。皆様は、其々施設において、新型コロナウイルス感染症に直接又は間接的に対峙され、大変ご苦労されていると思います。

コロナ禍で医療・看護の現場は、否応なしに変化への対応が求められ、看護の専門性や地域で暮らす人々を支えるという看護職の役割発揮が期待されていると感じています。

前年度は支部にとって、オンライン研修元年であり、試行錯誤しながら、計画通りにすべての研修を実施することができました。オンライン研修は、どこででも参加できる等の利点がある一方、受講者同士の交流の機会が減ってしまうのではないかと感じています。今年度は、まだ研修内容やスケジュールの詳細が決まっていないものもありますが、オンラインの特徴を理解し、皆様の意向をくみながら、多くの方にご参加いただけるよう、医療・看護の情勢に即した研修を企画していきたいと考えております。

今年度も役員・委員の皆様と協力しながら、魅力ある支部活動に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

梅下真由美副支部長

副支部長として、2 年目を迎えることになりました。

国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されてから 2 年が経過しました。変異し続けるコロナウイルスは、第 6 波でも猛威を振るい、未だに終息を迎える兆しがありません。そのような中で、私たちの生活様式も大きく変化してきました。今では「マスクがないと違和感を覚え、人と距離を取り対面時間は短く、同居家族以外の食事は控える」というのが日常となっています。支部活動も 21 年度はオンライン会議やｗｅｂ研修という形が定着し、課題もありますが、会員の皆さんの交流や学ぶ機会となる運営に一歩前進したように思います。

コロナ禍であっても、少子高齢化による 2025 年、その先の 2040 年問題を見据え、地域包括ケアシステムの中で、医療と生活の視点を持つ看護職が専門性を発揮し役割を果たすことが求められています。また、コロナ禍の状況も合わせて、増々地域ネットワークづくりの重要性を感じております。2022 年度も第 2 支部の皆さんが、地域の中での役割発揮に繋がるような企画・運営をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

リーダーシップ研修〔教育委員会〕　2021 年 10 月 26 日(火)

札幌医科大学附属病院の小野寺美希子さんを講師にお招きし、リーダーシップ研修を開催しました。

今年度のリーダーシップ研修は初めてのオンラインでの開催となり、36 名の方に参加していただきました。

研修内容は、リーダーシップ理論とリーダーシップに求められる能力を学び、仕事経験をリフレクションすることで教訓を導いていく「経験学習プロセス」についてワークを行いながら学びを深めていくスタイルでした。後半は 3～4 名でグループディスカッションを行い自己の仕事経験とリーダーシップ行動を振り返り、意見交換を行いました。受講生からは、「動機付けやリフレクションがいかに大事かわかった」、「グループディスカッションで他の方の意見を聞くことができ、様々な気づきがあった」などの意見が聞かれました。オンラインでのグループディスカッションは難しい面もあるのではと正直不安もありましたが、受講生の方は活発に意見交換をされていました。今後もオンライン研修が標準化していくことが予想されます。教育委員としても、より多くの方に参加していただけるよう、今回の経験を活かして研修の企画、運営に磨きをかけていこうと思います。

《 編集後記 》

「コロナ太り」という言葉が、私の周りでも多く聞かれます。何を食べるか、いつ食べるか。
姿勢を整えるなど、少し気をつけるだけで健康な体づくりが可能です。
新型コロナウイルスに負けない心と体で、乗り切って行きましょう。

広報出版委員　Ｋ・Ｋ